

記 録

平成三〇年度広島大学文書館公文書管理実務研修（熊本大学文書館受入れ）

香 室 結 美

研修の背景と概要

熊本大学文書館は平成二八年度の設立時より、国立公文書館等施設である広島大学文書館から文書管理等に関する助言を受けてきた。そして平成三〇年度五月一六日、館員の研修、公文書管理・学術的資料の収集・整理・保存に関する指導・助言等の業務協力を目的とした「広島大学文書館と熊本大学文書館との業務協力に関する協定」が締結された。本年度の協定締結により、歴史と経験が浅い熊本大学文書館の機能の充実と担当教職員の技能の向上を図るため本研修は実施された。日程は平成三〇年五月一四日および平成三〇年六月二五日、二八日、会場は広島大学文書館、参加者は一名である。

両館の現状と研修の目的

広島大学文書館の特徴は、第一に日本の大学文書館に先駆けた法人文書の統一的管理である。全学情報共有システム「いろは」の活用と、

大学事務組織との信頼・協力関係から成り立つ館員の地道な移管・廃棄作業によって、法人文書の管理機関としての運用を実現させている。広島大学や他の国立大学等の文書管理担当者向けの研修も行われてきた。第二の特徴は、初代学長森戸辰男氏関係資料（森戸辰男記念文庫）、第二次世界大戦後の広島の平和運動に関する個人文書（平和学術文庫）、広島大学の前身校の一つである広島高等師範学校卒業の小説家・梶山季之関係資料（梶山季之文庫）等を収蔵する大学史資料室を設置し、収集アーカイブズとしても機能している点である。

一方、熊本大学文書館は六十年史編纂事業の過程で設立された館であり、年史編纂事業において収集された資料が収蔵資料の中心となっている。館の主な目的は、熊本大学の歴史を伝える学内の様々な記録、本学教職員や卒業生の保有する資料、地域に関する資料等の収集・保存・公開である。熊本大学では各事務組織が法人文書管理を行っており、熊本大学文書館はその実質的な管理に携わることではできていないが、法人文書管理に関わる調査研究を通じた熊本大学の適切な管理運営への寄与を設置目的に掲げている。このことから本研修では、第一

に熊本大学文書館を特徴づける大学史資料や地域に関する資料の収集と分類体系の構築を今後どのように行っていくべきかについて学ぶこと、第二に大学法人文書管理のひとつの将来的な手本として広島大学文書館のノウハウを学ぶことを目指した。

研修内容

五月一四日(月)に事前研修として広島大学文書館見学を実施した。熊本大学文書館の現状報告を行ない、組織・スタッフの紹介、収蔵庫の案内、大学文書館としての学内外における役割に関する助言を受けた。六月二五日(月)～六月二八日(木)に本格的な研修として、大学史資料室業務実務研修(担当…大学史資料室長・高杉洋平氏)、公文書室業務実務研修(担当…公文書室長・村上淳子氏)、公文書管理に関する講義(担当…小池理一館長)を受けた。大学史資料室業務実務研修では資料収集・整理・保存の方法、資料目録の作成、レファレンス資料提供に際しての個人情報確認等について実習を交えて学んだ。公文書室業務実務研修では広島大学の法人文書管理を事例に講習を受け、収蔵庫を見学しながら実際の管理方法と大学各組織との協働について学んだ。公文書管理に関する講義では「日本のアーカイブズと大学文書館」をテーマに、平成二三年に施行された公文書管理法の意義、日本の国立大学における公文書管理の実情、そして広島大学文書館における統一的文書管理の方法を学んだ。さらに、日本の文書館でおろそかにされがちな行政の効率性向上や個々の地域住民の記録を

検証する機能の重要性を学んだ。

研修では、資料整理を行う上で日頃感じている細かな実際的问题の解消にとどまらず、文書館のあるべき姿といった理論的問題についても議論することができ、職員数が少ない熊本大学文書館にとって他のアーキビストと率直に話し合うことができる極めて有意義な時間であった。

今後の展望

第一に熊本大学文書館における収集資料については、大学史に限らず地域の歴史や特色に関わる資料群をどのように集めていくかが今後の課題となる。広島大学文書館は原爆に関わる平和学術文庫を収蔵しているが、本年度より熊本大学文書館では熊本大学の教職員も関わってきた(水俣病)問題に関する資料の整理・公開を重視する方針をとっている。また、(水俣病)問題に限らず熊本にはハンセン病の国立療養所恵楓園が設置されており、ハンセン病に対する関心も高い。その他、熊本地域に関わる資料とどのように関わっていくか、熊本県内外の教育行政機関や民間団体とのネットワークを活かし、大学教職員と地域住民と共に資料の収集と活用の方法を考えていきたい。

第二に法人文書管理については、文書館で管理を行うための体制を現在整えている段階であり、広島大学と同規模での法人文書管理実施への到達はまだまだ先である。ただし、本年度締結された両校の協定を活かし熊本大学職員にむけた公文書管理に関する講義・研修を開催

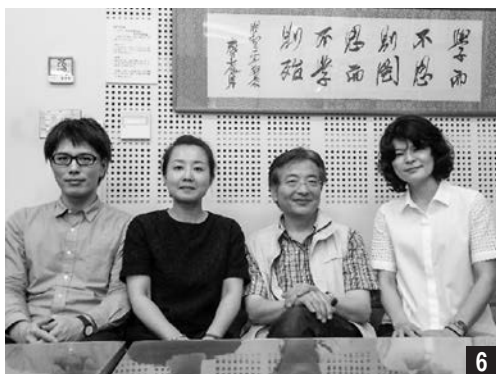
するなど、公文書管理に関する知識と技能をより積極的に大学教職員と共有していくことは可能である。文書管理を行う担当者に専門的知識を提供することも大学文書館の重要な役割であり、熊本大学文書館が当面目指している法人文書の適切な管理と大学運営への寄与につながるだろう。

文書館は単なるモノの収蔵スペースではなく、ひとつの出来事に関して人々がどのように考え動いたのか、その過程で生成された多様な記録からストーリーを紐解くことができる想像と創造の場でもある。また、小池館長による講義で学んだように、地域や家族の「モニユメント」として親しい人々の記憶を呼び起こし、自己のルーツを検証する場でもある。大学文書館は組織の記録を残し職務の検証を可能にすることを目指すと同時に、大学と地域の関係を示す場であらねばならない、今回の研修でこのようなことを考えさせられた。最後に、少数の研修をアットホームな雰囲気を受け入れてくださった広島大学文書館の皆様にご礼申し上げたい。国立大学文書館間の初の協定として先駆的な事例になるべく、大学アーカイブズ業務の合理化と高度化に向けて協力し日々の業務を行っていききたい。

【謝 辞】

本研修旅費として以下の研究費より助成を受けた。深く御礼申し上げます。「水俣病事件の記憶術と（脱）アーカイヴ構築―未来の人文社会科学の総合研究に向けて」二〇一六―二〇二一年度、研究課題・領域番号一六日〇一九七〇（研究代表者…慶田勝彦 熊本大学）

（かむろ ゆみ・熊本大学文書館 特任助教）



- 1 広島大学文書館入口
- 2 公文書室業務実務研修 (担当: 村上氏)
- 3 収蔵庫案内 (担当: 高杉氏)
- 4 公文書管理に関する講義 (担当: 小池館長)
- 5 保存箱作成実習
- 6 研修集合写真
(左から高杉氏、香室、小池館長、村上氏)